

平成 26 年 5 月 27 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 26 年 5 月 27 日 (火曜日)

午後 2 時 35 分から午後 3 時 55 分まで

2 場 所 山古志中学校 会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信 委 員 中村 美和
委 員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	若月 和浩
教育総務課長	武樋 正隆	教育施設課長	中村 仁
学務課長	田村 均	学校教育課長	竹内 正浩
子ども家庭課長	波多 文子	保育課長	栗林 洋子
中央公民館長	佐藤 実	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	小熊 博史	学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹
学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史	学校教育課主幹兼管理指導主事	宮 宏之

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	茂田井裕子	学校教育課長補佐	山田あゆみ
教育総務課庶務係長	水内 智憲	教育総務課庶務係	大橋 悠子

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 29 号	補正予算の要求について
3	第 30 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 5 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

日程第 2 議案第 29 号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 29 号 補正予算の要求について を議題とする。
事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 6 月 17 日から 30 日まで開催される 6 月市議会で提案したいものである。歳入歳出額については市長に要求した金額で、実際に議会に提案する金額は調整される場合がある。各課から説明する。

(中村教育施設課長) 教育施設課の要求分について説明する。この補正予算要求は現在進めている総合支援学校グラウンド等整備事業において、拡張用地の買収について地権者から同意を得たため、不足する用地取得費を要求するものである。まず歳出について、取得費総額は約 7,800 万円を見込んでいるが、当初予算で 100 万円を予算付けしてあるので不足する 7,700 万円を増額補正したい。次に歳入について、用地取得費の財源として歳出補正額 7,700 万円の 9 割である 6,930 万円を総合支援学校債で措置したい。

(竹内学校教育課長) 学校教育課の要求分について説明する。まず「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」の歳出 183 万 5 千円についてである。これは各学校で支援が必要な児童に対しどのような支援を行えば効果があるのかという実践をまとめ、データベース化して広めようという特別支援教育の推進を図る国の事業である。昨年度は富曽亀小学校で実施し、平成 26 年度は富曽亀小学校と日越小学校が国の受託を受け、実施する予定である。内容は、学校でどのような支援をすれば良いのかを研究するために、外部から人材を呼び、指導していただくための謝金や旅費等を計上している。この歳入は、国との直接契約なので、国からの委託金を計上した。次に「学校同和教育推進事業」の歳出 18 万 5 千円についてである。国の「人権教育研究指定事業」を受託し、三島中学校で実践研究を行い、その結果を国に報告する。内容は、講師を学校に招いて実施するための謝金や現地視察のためのバスの借上料等を計上している。この歳入は、まずは新潟県が国から受託し、長岡市が再委託するものであるため、新潟県からの委託金を計上した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 富曽亀小学校は昨年度もインクルーシブ教育を実施していたが、それは 2 年続けて行うのか、それとも今年度新たに実施するという事なのか。

(竹内学校教育課長) 国はより多くの実践例をデータベース化したいと考えている。そのため、富曽亀小学校の事例を挙げ、全校を対象に公募した。富曽亀小学校はデータベース化をさらに進めたいと、昨年引き続き再応募した。日越小学校は肢体不自由の児童がいるため、どのような環境整備や支援ができるのか専門家の力を借りて学校が一緒に取り組みたいと新たに応募した。

(大橋委員長) 長岡市では総合支援学校をはじめ、環境整備や支援等、特別支援教育に関する取り組みが進んでいる。そのような中でインクルーシブ教育をどう進めていくのか、この研究の成果を聞かせてほしい。

(竹内学校教育課長) 実践がまとまり次第、成果等を報告したい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(青柳委員) もし多数の学校に応募してきた場合、どの程度まで受け入れ可能なのか。また継続して受けることは可能なのか。

(竹内学校教育課長) 国の採択の範囲になるため、多数応募があった場合は応募校

全てが受けられるかどうかはわからない。また、この事業自体が何年継続されるの
か不明であるため、今の実践を市内に早急に広めていきたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(加藤教育長) インクルーシブ教育とは具体的に何をするのか。

(竹内学校教育課長) 国は児童にどのような支援や環境整備を行えば、その効果が出
るのか、全国からデータベースを集めフィードバックすることで、この事業を進
めたいと考えている。長岡市は特別支援教育に関する取り組みがある程度進んでい
るため、長岡市の実践例のPRを兼ねて応募した。また、外部の専門家の知識を加
えることで児童への支援をさらに充実させることができるのか検討している。

(佐藤教育部長) インクルーシブ教育で「合理的配慮」という概念が導入された。
障害のある子どもそうでない子ども同じ場で教育を受けるために、合理的配慮の中
でやれることをやり、その成果を蓄積し、その事例集を作りたいと国は考えている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定
することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第3 議案第30号 附属機関委員の委嘱について

(大橋委員長) 日程第3 議案第30号 附属機関委員の委嘱について を議題と
する。事務局の説明を求める。

(武樋教育総務課長) 7月1日に設置する「長岡市子ども・子育て会議」の委員を
委嘱したいものである。公募委員4人を含む20人で構成したい。

(若月子育て支援部長) 子ども・子育て支援法が昨年度に制定され、子ども・子育
て支援事業計画を平成27年度から策定する義務がある。計画を策定するにあたっ
て、会議の設置は市町村は努力規定である。長岡市はこれまで子育て応援プラン推
進協議会があったので、引き続き会議を設け市民から意見を聞きながら行いたいと

考えている。2月の定例会において設置の条例案を決定していただき、3月の市議会で議決され、委員の人選を進めてきた。子どもの誕生前から義務教育終了までを一貫して市で支援している。その一貫した考え方の中でどのように子育てをしていくかを子ども子育て会議の中で考えていきたい。「就学前の保育、幼児教育のあり方」、「小学校期の放課後、長期休業中の体制のあり方」、「幼児期から中学終了までの健全育成のあり方」は、どのようなあり方が良いのか。また「子ども・子育て支援事業計画の策定に対する意見及びその進捗状況の評価」、「家庭生活(子育て)と仕事のバランスであるワークライフバランスや企業への子育て支援策」をともに検討していこうと、関係団体を考慮しながら人選したものである。「就学前の保育、幼児教育のあり方」、「小学校期の放課後、長期休業中の体制のあり方」、「子ども・子育て支援事業計画の策定に対する意見及びその進捗状況の評価」については法定事項である。会議のスケジュールについては、平成26年7月中旬から平成27年2月上旬までに3回の会議を行い、この間に検討項目ごとにワーキングを実施しながら計画案を作成する予定である。子育て支援部内でもプロジェクトを設置し、そこで原案を作り、会議に諮る予定である。公募委員については、4月に公募したところ十数名から応募をいただいた。当初3人の予定だったが、非常に意欲的な方が多かったので枠を広げて4人にした。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 子ども・子育て会議委員の開業助産師の方は、居住地が新潟市とあるが長岡助産師会に所属し、勤務地は長岡市なのか。

(若月子育て支援部長) そうである。長岡助産師会からの推薦である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。協議事項として、平成 26 年度 長岡市成人式について事務局の説明を求める。

(波多子ども家庭課長) 5月3日に開催された長岡地域をはじめとする5地域の成人式では、教育委員の皆様方に開式宣言等ご協力いただき感謝する。長岡地域のオーレ会場では、今回から初めて大開口扉を閉めて式典を実施したところ、厳粛な式典を実施できた。しかし、長岡市長の挨拶や成人の誓いの時に、一部心無い成人による暴言等があったため、今後は入場の可否等の検討が必要である。一概に排除することは出来ないため、良い方法を考えていきたい。長岡地域の成人式の従来との変更点として、式典開始時に旭岡中学校吹奏楽部のファンファーレを演奏したことにより、テンポよく式典が開始できた。また、長生保育園の演奏を式典開始前にしたことで、式典全体を効率よく運営できた。ナカドマでのオープンカフェイベントでは昨年度に引き続き、バーテンダー協会さん、スターバックスさん、岩塚製菓さんに加え新たにサントリービバレッジさんからも飲み物等を提供していただいた。昨年度はバーテンダー協会さんからアルコール類を提供していただいたが、今年度はノンアルコールに変更したところ、新成人はノンアルコールでも喜んでいて、今年度は初めて全員着席しての成人式実施となったが、また来年度に向けて課題を整理し、より良い成人式を執り行いたい。一方、支所地域においては和やかな雰囲気の中で粛々と行われた。特に小国地域では、小国地域外への転出者からの参加申込みが、例年では7、8名のところ今年度は15名と多く、市の担当も喜んでいて。

(大橋委員長) それぞれの会場の様子や感想について、委員の皆さんからお話しいただきたい。

(青柳委員) 川口会場に出席した。式典当日は風が強かったが、室内開催なので滞りなく感動的な雰囲気の中で行われた。しかし、記念撮影は室外だったため撮影に時間がかかり大変だった。

(羽賀委員) 栃尾会場に出席した。非常に良い雰囲気で、地元開催の良さを感じた。写真撮影は2つの地域に分かれて行うので時間がかかった。

(加藤教育長) 越路会場と小国会場に出席した。越路会場は成人式らしい式で、保護者も多く出席しており良かった。小国会場は地域外へ転出した人の出席が多く良かった。

(大橋委員長) 長岡地域に出席した。今年度は非常に良く出来ていた。一部で暴言等
はあったものの大きな問題はなかった。大開口扉を閉めたことと、スタッフの誘導が
良かった。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に長岡地区教科用図書採択協議会にお
ける最終的な合意形成の方法について、事務局の説明を求める。

(竹内学校教育課長) 長岡市と三島郡出雲崎町の教育委員会が教科用図書の共同採
択のために設置している長岡地区教科用図書採択協議会で先般、採択すべき教科用
図書を決定する際の最終的な合意形成の方法を、協議の上、次のとおりとすること
としたので報告する。採択すべき教科用図書の決定の際に合意が形成できず協議が
調わない場合には、会長が再度、長岡地区教科用図書採択協議会を招集し、再協議
の上、採択すべき教科用図書を決定することとする。なお、再協議を行っても採択
すべき教科用図書についての合意が形成できない場合は、出席した委員の多数決に
より採択すべき教科用図書を決定することとするというものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、長岡市が制定する要綱の一部改正
及び制定について、事務局の説明を求める。

(田村学務課長) 一部改正について、「長岡市立学校遠距離通学児童生徒通学支援
及び通学費補助金の交付等に関する要綱」を説明する。本要綱は、市長の補助執行
として行い、長岡市として公表するため報告事項とする。長岡市において遠距離通
学児童生徒への通学支援の方法が2通りある。1つ目は長岡市が手配している車両
をもって送迎を行うスクールバスの運行である。2つ目はスクールバスがない地域
において、公共交通機関を利用して通学する児童生徒に対し、補助金の交付または
通学定期券の給付をもって支援を行っている。今回の改正理由として、山古志地
域・太田地区を運行していた会員制無償バスであるクローバーバスが、平成26年
度から過疎地有償運送である自家用有償旅客運送に移行するにあたり、山古志小・
中学校の遠距離通学支援として3月まで運行していた通学タクシーを廃止し、クロ

ーバーバスを通学に利用することとしたものである。これに伴い、補助方法を長岡市が独自に手配する通学タクシーから定期券の交付に変更することとなったため、一部改正する。この要綱は、公表の日から施行し、改正後の規定は、平成 26 年度における通学支援から適用する。公表日は 5 月 27 日を予定している。

(波多子ども家庭課長) 続いて、「長岡市子育て世帯臨時特例給付金支給事業実施要綱」制定について説明する。制定理由としては、消費税の引き上げに際し、子育て世帯への影響を緩和するとともに、子育て世帯の消費の下支えを図る観点から、臨時的な給付措置として実施する子育て世帯臨時特例給付金支給事業に関し必要な事項を定めるものである。施行期日は 5 月 20 日である。消費税率の引き上げによる影響の緩和措置として、臨時福祉給付金と子育て世帯臨時特例給付金の 2 種類が同時期に支給されるが、臨時福祉給付金対象者は子育て世帯臨時特例給付金は受けられないと複雑になっているため、国はパンフレットを作成して周知に努めている。市としては一部世帯に両方の案内を送付せざるを得ない状況にあるが、さいわいプラザ 6 階の同室で両給付金の作業をしており、連携を取りながら分かりやすい案内を心がけていく。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 26 年度子どもの虐待防止啓発事業「怒鳴らない子育て講座」の実施について、事務局の説明を求める。

(波多子ども家庭課長) この事業は平成 24 年度から始めており、今年で 3 年目になる。目的としては子どもの関わり方についての研修会を通じて児童虐待防止に繋げるものである。児童虐待は特別なものではなく、誰にでも起こり得るものとして啓発するものである。実施方法は N P O 法人「子どもの虐待防止ネット・にいがた」と子ども家庭センターが連携して実施する。できるだけ多くの保護者が参加できるように保育園・幼稚園が実施している「父母の会研修会」や「保護者会」とタイアップして出前講座として実施する。講座の内容は、子どもへの注意の仕方等を、劇を交えながら説明してくれるもので、保護者からは分かりやすいと好評である。今年度は公立保育園 15 園で実施する予定である。私立保育園では昨年度と一昨年度に実施した。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 平成 24 年度から平成 26 年度の中で、再実施している保育園はあるのか。

(波多子ども家庭課長) 現時点ではない。まずは一巡させる予定である。

(大橋委員長) 他に質疑。意見はないか。

(中村委員) 保育園や幼稚園に入園させていない 3 歳未満の子を持つ保護者や育児サークル利用者等は参加可能なのか。

(波多子ども家庭課長) 参加は想定していないので検討する。この他にも N P O 法人が主催の「ノーバディーズ・パーフェクト(完璧な親はいない)」という支援プログラムを実施しているが、プログラムの性質上、限られた人数を対象にしているのが現状である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 26 年度思春期向け次代の親育成事業の実施について、事務局の説明を求める。

(波多子ども家庭課長) この事業は中学 3 年生を対象に乳幼児や親子とのふれあいを通じ、若い子どもに対しての愛着や命の大切さを学びながら自己肯定感や自尊心を育むものである。平成 24 年度に開始し、子育ての駅ぐんぐんを会場とすることもあり、初年度は南中学校、昨年度は旭岡中学校で実施した。今までは子育ての駅ぐんぐんに近い学校から一校ずつ声がけをしていたが、今年度から拡充したいと考え、希望校を公募したところ 5 校から応募があった。その中から 2 校、北中学校と秋葉中学校で実施することに決定した。会場として北中学校は子育ての駅ぐんぐん、秋葉中学校は子育ての駅とちお「すくすく」を活用したいと考えている。事業内容としては、「命の大切さ」をテーマに公益社団法人誕生学協会認定講師である佐竹直子氏を講師に迎え、思春期向けの講座を 9 月以降に開催する予定である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 26 年度家庭でワクワクお手伝いポスターコンクールの実施について、事務局の説明を求める。

(波多子ども家庭課長) 昨年度、「家庭でワクワクお手伝い通信」を小学校・保育園等に3回発行し、それに加え、実践的な取り組みとしてポスターコンクールを開催したものである。昨年度は、長岡市内の小学4年生から6年生を対象とし、37点の出品があった。今年度からは長岡市内の小学1年生から中学3年生までと拡大し、より多くの出品を期待している。賞は、大賞1点、優秀賞3点、奨励賞8点とし、副賞として図書カードを贈呈する。なお、奨励賞は今年度より新設した。また応募者全員を入選とし、賞状を授与する。審査員は昨年度と同様である。夏休みの課題として取り組んでもらうため、6月上旬には各学校に募集要項を配布予定である。大賞作品を啓発ポスターとして印刷し、学校をはじめとした公共施設、店舗等に掲示しPR活動を行う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、長岡の文化財展「木喰と良寛」について、事務局の説明を求める。

(小熊科学博物館長) 科学博物館のリニューアルオープン記念特別展第1弾として、長岡の文化財展「木喰と良寛」を5月17日から開催している。木喰と良寛は江戸時代後期にそれぞれ彫刻と書において独自の境地を開き多くの作品を残した。本展では、長岡に残された作品や関連資料等、新潟県の指定文化財や長岡市の指定文化財を中心に多数紹介している。高さ約2.5mの木喰仏仁王尊や、師弟関係にあった良寛と貞心尼の作品等見応えのあるものになっている。教育委員の皆様にも是非ご覧いただきたい。あわせて6月に、全国木喰研究会評議委員の小島悌次氏と能登屋の木村元蔵氏を講師に迎え講演会を開催予定である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。

(栗林保育課長) 4月の教育委員会定例会で長岡市内の園を卒園する全園児が「卒園までに身につけたいこと」の取り組みがあれば良いという意見を受け、保育課職員で議論した。その結果、長岡市歌「笑顔いきいき」を手話付きで歌えるよう今年度取り組んでいくこととした。「笑顔いきいき」は平成18年4月1日に、市制100

周年記念事業、合併記念事業、中越大震災からの復興の思いという趣旨で制定されたものである。この取組みをする1つ目の目的は、小学校の入学式等で、新1年生が在校生と「笑顔いきいき」を一緒に歌い、一体感を味わうことで、安心して小学校生活をスタートできるきっかけづくりにしたいというものである。2つ目の目的は、長岡の子どもたちが、長岡を離れても長岡で育ったことに自信と誇りを持ち、同郷同士が共に市歌を口ずさむことで、ふるさとを愛する気持ちを育みたいというものである。3つ目の目的は、来年度、合併10周年を迎えることから、子どもたちの元気な歌声を通して、広くなった長岡全地域に市歌を広め、一体感を醸成するための一助にしたいというものである。対象は市内の公立・私立保育園、幼稚園及び5歳児が通園する認可外施設等で、この中には長岡聾学校の幼稚部や附属長岡幼稚園等も含まれ、計103園を見込んでいる。今後の予定として、現在長岡市歌は成年が歌うCDしかないので、長岡市歌の担当である政策企画課と連携し、長岡少年少女合唱団が歌う「笑顔いきいき」CDを制作することにした。他にも長岡市ろうあ者福祉協会と福祉課が連携しながら手話付き楽譜を制作し、6月下旬からホームページで手話付きの「笑顔いきいき」の動画を配信する予定である。また、保育士を対象に研修会を実施し、10月頃から各園で発表会、敬老会等の機会を捉え、保護者や地域に披露し、その後は市や教育委員会の行事等で広く市民にPRしていきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 市制100周年記念事業時に、長岡市の多世代多地域の方からこれからの100年に希望する単語を集め、その上位をつないで5つの文章にした1つが「笑顔いきいき」である。これには長岡人の思いが全て詰まっている。「笑顔いきいき人がつながる地域がつながる」という文章が一番良かった。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 小学校の親善音楽会で「BELIEVE」を歌っているが、長岡市歌「笑顔いきいき」も歌うよう指導があった方が良い。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。

(金垣中央図書館長) 中央図書館文書資料室では、中越大震災復興 10 周年にあわせて長岡市が実行する復興 10 年フェニックスプロジェクトとして、各地域会場でリレー講演会を全 15 回実施する。6 月 22 日はさいわいプラザ 4 階にある長岡市中央公民館大ホールを会場に、新潟大学教授の矢田俊文氏を招き、長岡藩主牧野家の記録を基に講話していただく。表題に「災害の歴史に何を学ぶか～地震・津波・洪水と長岡藩主牧野家の記録～」とあるように、津波の資料を活用して講演するのは今回が初めてで興味深い内容となっている。各地域について、例えば山古志地域では牛の角突き、中之島地域では水害による治水事業に尽力した大竹貫一、寺泊地域では海の災害、栃尾地域では石仏というように、地域性と災害をテーマに実施予定である。興味のあるテーマがあれば是非ご参加いただきたい。次に長岡市史双書を読む会「江戸時代の旅と旅日記」の講座では、小林虎三郎の父である、長岡藩士の小林誠斎と長岡藩北組割元格庄屋の清水雪海の旅日記「海岱日録」をテキストとしている。小林虎三郎自身の米百俵精神につながるものがあるので、後日この市史双書を委員の皆さんに配布予定である。機会があれば、ぜひ一読いただきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に太田小・中学校、山古志小・中学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(青柳委員) 太田小・中学校は、聞いていたとおり少人数だった。6 年生の算数の授業を見学した。このクラスはすごく明るく、子どもたちと教師の意思疎通がよくできていた。山古志小・中学校は、校舎がきれいだった。先生方も生徒たちもいきいきとしており、特に子どもたちの目が輝いていた。百人一首に力を入れていると聞いた。伝統に力を入れていることは素晴らしいことで、今後も続けてほしい。また阪之上小学校と共に震災を乗り越えた学校であるが、その阪之上小学校と現在も交流があることを嬉しく思った。

(羽賀委員) 太田小・中学校はオープンスクールで、児童生徒が現在より少しでも伸びるよう個々にあった教育をしており、力のある先生方が安定した授業をしている印象をもった。子どもが自主的に行動できるよう「待つ」姿勢の教育力を感じた。

山古志小・中学校は、山の中といいながら国際性に富んだ地場もあり、それが子どもたちに良い影響を与えていると感じた。子どもたちも非常に明るく、授業にも集中して取り組んでいた。小規模校の良さが感じられた。

(中村委員) 太田中学校の授業を見学した後の懇談会で校長先生が、「社会性も学力の一つである。個々の生徒それぞれに対応して精一杯努めている。」と述べているのを聞き、大変良いと思った。また、保護者の方から、「この学校に来てから、子どもが変わりとても良かった。もっと早くからお世話になれば良かった。」と具体的な意見を聞いた。山古志小・中学校の校舎はきれいで雰囲気も良く、子どもたちが落ち着いて授業を受けていた。特に低学年児童の、ノートに書く字がすごくきれいなことに驚いた。これが少人数指導の良さなのだろうと思った。

(大橋委員長) 太田小・中学校の特色として自然が豊かで環境が良い、地域との関わりがある等が挙げられるが、どんな子であっても自らが変わるといったことを目的の柱に掲げていることが一番良いと思った。これからも応援していくべきだと強く感じた。山古志小・中学校は大震災からの復興により社会性の成長が大きく、子どもたちがとても明るく何事にも一生懸命取り組む姿勢に感心した。

(加藤教育長) 太田小・中学校は先生方の頑張りがあり、保護者が喜んでいることが良かった。これからも地域との連携や良好な関係作りに尽力していただきたい。山古志小・中学校は校長先生をはじめ、諸先生方の力量があり、安定した学校経営がなされていた。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員